

フリーペーパー ペッコ

PECCO

VOL.70 2025.2



3階閲覧席

発行 岩手県立図書館



郵送複写サービス

岩手県立図書館の資料を、著作権法で定められた範囲内で複写し、郵送でお送りするサービス、「郵送複写サービス」をご存知ですか？利用者登録をしていない方でも利用できる便利なサービスです。そこで今回は、直接図書館に来館しなくても受けられるサービスにスポットをあて、そめちゃんとセキネさんがいろんな角度からご紹介します！



郵送複写サービスって何？

ご来館いただくことなく複写を申し込み、郵送で複写物を受け取ることができる有料のサービスです。お申込みから複写物のお届けまで、1週間程度かかります。また資料によっては、保存上や形態上の理由により、マイクロフィルムなどの媒体変換したものからの複写をお願いすることもあります。



便利です。

複写対象資料

岩手県立図書館で所蔵している資料

資料によっては、マイクロフィルムやデジタル資料、電子縮刷版から複写することもあります。

申込方法

「図書館資料複写申込書」に記入

「図書館資料複写申込書」はホームページからダウンロード可能。お問合せいただければ、FAX や郵送でもお送りいたします。



資料の名前や、掲載ページがはっきりしない時は調べてくれるらって、お気軽に相談してね♪

申込書送付方法

郵便・FAX・メール添付



申込書が当館に届いたら、さっそくスタッフが記入内容をもとに複写を開始！

複写料金

複写方法によって異なる

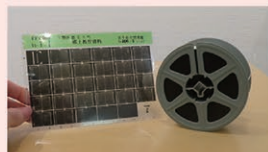
複写対象資料の形態によって、複写方法が変わるため、料金が異なります。



図書や雑誌、マイクロ資料や電子資料などいろいろあるもね。

複写方法	用紙サイズ	白黒	カラー
コピー機	B5 ~ A3	10円	50円
マイクロフィルム資料	A4 ~ A3	30円	なし
電子資料	A4・A3	10円	40円

※このほかに送料がかかります。



▲マイクロフィッシュとマイクロフィルム

支払方法

料金は後納

複写物を受け取った後にお支払いいただく後払い方式です。

複写物とともに、振込用紙等を同封しますので、内容をご確認の上、受取後2週間以内に、郵便局または金融機関からお振込みください。また、複写方法によっては、送料分の切手の送付をお願いしています。



詳しい情報は
こちらから
ご確認ください

教えて
セキネさん!



郵送複写 エトセトラ

どのくらいの申し込みがあるの？

年にだいたい150人くらいですね。枚数にすると、4000～5000枚。過去には、お1人で3000～4000枚の申し込みがあったことも。驚きましたよ～。もちろん封筒には入りませんのでね、箱に入れて宅配便でお届けしました。

申込件数がすごく多かったのはいつ？

令和2～3年頃です。その数なんと例年の3割増。なぜか？これはですね、コロナ禍の影響で移動制限もあり、さらには全国の図書館の休館が相次いでいました。そんな中、制限を設けながらも岩手県立図書館は開館していましたから、それで申込みが集中したのかもかもしれません。

県外からの申し込みが多いってホント？

本当です。全体の70～80%が県外の方です。直接来館するのがむずかしい遠方の方でも、必要な情報を入手できる図書館の重要なサービスと言えますね。とはいえ、近所の方がお申込みいただいてももちろんいいですよ！

申込みの多い分野は郷土資料なの？

そうです。やはり、岩手県立図書館にしかない資料のお申し込みが多くなります。これは、「郷土レファレンス」、いわゆる岩手に関する調べもののお手伝いをするなかで、郷土資料の複写につながる事が多いためです。

うまく写らない。

古い資料の複写をするときは、資料へ負担をかけないよう、とても気を遣いながら慎重に作業します。しかし！そうすると、合冊製本された雑誌など、本を開いた時の中心部分がうまく写らないことがあるんです…。再度やり直しますが、ご理解のほど、どうぞよろしくお願いたします。

真っ黒。

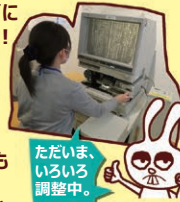


「黒塗り公文書ですか？」とお叱りを受けかねない仕上がりになることがあります。古い新聞などマイクロフィルムからの複写は、画面上では読めていても印刷したら文字がつぶれて写真が真っ黒！ということも。そんな時は、濃度やコントラストなど設定を微調整して少しでもキレイに写すよう調整します！

ページ番号がない。

古文書を複写するときは、マイクロフィルム等から複写しますが、相手は「くずし字」です。さらに「ページ」がありませんから、当該部分のみならず、抜けてるところや重複がないか、何度も確認しながら進めています。ページ番号がないってツライ。結果、通常よりお時間をいただいております。ごめんなさい。

ほんのちよっただけ
BOYAいて
いいですか？



ただいま、いろいろ調整中。

おすすめ新着郷土資料【2024年10月-12月新着分】



釜石のいちばん長い日 元市長の震災記

野田武則 著 / PHP 研究所

2011年3月11日に起こった東日本大震災で甚大な被害を受けた岩手県釜石市。大震災直後の混乱から被災者の捜索、避難所の運営、ラグビーワールドカップ誘致、橋野鉄鉱山の世界遺産登録などをどう考えて決断し、対応したか、そして次なる災害への教訓、提言を4期16年にわたり釜石市長を務めた筆者が振り返り綴った一冊。



舟越桂 - 森の声を聴く

酒井忠康 著 / 求龍堂

盛岡市出身の世界的な彫刻家・舟越桂と日本を代表する美術評論家・酒井忠康が語り合った4つの対話を収録しています。酒井忠康による舟越桂では、神秘的な作品を作り続けたきた舟越桂の作品とその精神性を丁寧に追います。2024年春に72歳で旅立った舟越桂を深く知ることができる貴重な一冊です。巻末には舟越桂の略歴も掲載されています。



岩手県

47都道府県ご当地文化百科 3

丸善出版 編 / 丸善出版

都道府県それぞれの特色を比較して解説する「47 都道府県百科」シリーズから30タイトルを選び、その地ならではの豊かな文化が一望できるご当地文化百科が誕生しました。本書では、岩手県を歴史・食・営み・風景という分野に分けて、地域色豊かな伝統的課題について解説するだけでなく、知っておきたい岩手県の基礎知識も収録しています。



母の待つ里

浅田次郎 著 / 新潮社(新潮文庫刊)

大手食品会社社長の松永徹、退職と同時に妻から離婚された室田精一、親を看取ったばかりのベテラン女医・古賀夏生。都会で孤独に暮らす還暦前後の悩みを抱えた3人が半信半疑で向かった先には、奇跡の出会いが待っていました。新しい家族とふるさとの形を描いた『母の待つ里』の文庫版が発行されました。映像化もされ、岩手県遠野市が撮影地となりました。



ひき石と24丁のとうふ

大西暢夫 著 / アリス館

二戸市浄法寺町の山の中で、小山田豆腐店を営む90歳のミナさん。一晚、水にふやした大豆を、「ひき石」と呼ぶ石臼で6時間かけて挽き、薪で炊いた釜で煮立たせ、手で動かす道具だけで豆腐を作り続けています。24丁の豆腐ができるまでを、ミナさんの暮らしと共に紹介する、16年に渡る取材から生まれた写真絵本です。



銀河の図書館

名取佐和子 著 / 美業之日本社

県立野垂高校の図書館で宮沢賢治を研究している弱小同好会「イーハトー部」。ある時、同好会の部長である風見先輩が、「ほんとうの幸いは、遠い」という言葉を残して学校から消えてしまった。部員たちは宮沢賢治が残した言葉や詩、そして未完の傑作『銀河鉄道の夜』をひもときながら、消えてしまった先輩の謎に迫っていく。